

資料3 助産師能力開発プログラム展開の実際

助産師クリニカルラダー		レベルⅠ	レベルⅡ	
看護職員のキャリアラダー		レベルⅠ	レベルⅡ	
到達目標		1. 指示・手順・ガイドに従い、安全確実に助産ケアができる	1. 健康生活支援の援助のための知識・技術・態度を身に付け、安全確実に助産ケアができる 2. ハイリスク事例についての病態と対処が理解できる	
倫理的 感応力	ケアリングの姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアリングの意味・主要な概念や理論が理解できる</li> <li>・ケアリングの重要性が理解できる</li> <li>・ケアリングの主要な概念をもとに行動できる (知ること／共にいること／誰かのために行うこと／可能にする力を持つこと／信念を維持すること)</li> </ul>		
マタニティ ケア能力	妊娠期・ 分娩期・ 産褥期・ 新生児期の 診断とケア/ 分娩期の 配慮の視点	情報収集	[マタニティケア能力は、資料4参照]	
		アセスメント ／問題(ニース)の明確化		
		診断		
		計画立案		
		実践		
評価				
専門的 自律能力	教育	教育指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職人としての自己の学習課題を認識する</li> <li>・支援を受けながら、ローリスクを対象とした保健指導が実施できる(個別・小集団)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同僚が職場や新しい生活環境に慣れるように支援する</li> <li>・支援を受けながら、ローリスクを対象とした保健指導が実施できる(個別・小集団)</li> </ul>
		自己開発		
	研究	キャリアラダー レベルⅠに準ずる	キャリアラダー レベルⅡに準ずる	
	コミュニケーション (対人関係)	キャリアラダー レベルⅠに準ずる	キャリアラダー レベルⅡに準ずる	
	倫理	社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立成育医療研究センターの患者権利憲章・看護者の倫理綱領の概要が分かり、指導を受けて、倫理面に配慮した行動ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の倫理的問題に気付き、配慮した行動ができる</li> </ul>
		助産倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICM-助産師の国際倫理綱領、ICN-看護師の倫理綱領および日本看護協会-看護者の倫理綱領を理解できる</li> <li>・助産業務に関連する生命倫理を意識できる</li> <li>・職業人としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICM-助産師の国際倫理綱領、ICN-看護師の倫理綱領および日本看護協会-看護者の倫理綱領について、日常の助産実践に関連付けて理解できる</li> <li>・倫理原則を理解できる</li> <li>・助産実践は法的根拠に基づくものであることを理解できる</li> </ul>
	管理(マネジメント)	安全	キャリアラダー レベルⅠに準ずる	キャリアラダー レベルⅡに準ずる
		経済性	キャリアラダー レベルⅠに準ずる	キャリアラダー レベルⅡに準ずる
		リーダーシップ	キャリアラダー レベルⅠに準ずる	キャリアラダー レベルⅡに準ずる

レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産過程を踏まえて個別的なケアができる</li> <li>2. ローリスク/ハイリスクの判別および初期介入ができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入院期間を通して、責任をもって妊産褥婦・新生児の助産ケアを実践できる</li> <li>2. ハイリスクへの移行を早期に発見し対処できる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 創造的な助産実践ができる</li> <li>2. ローリスク/ハイリスク事例において、スタッフに対して教育的な関わりができる</li> </ol>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラダーレベルに合った対象へのケアについて、ケア提供した事例を具体的に思い浮かべながら、助産師としての姿勢を自己評価できる (ケアリング実践のための自己課題を明確にできる)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアリングの意味、主要概念や理論について、後輩・同僚に説明できる</li> <li>・ケアリングの意味、主要概念や理論に基づいた実践のために、後輩・同僚に教育・指導的役割が実践できる</li> </ul>
[マタニティケア能力は、資料4参照]		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・同僚の臨床看護実践を支援する</li> <li>・ローリスクを対象とした保健指導が実施できる(個別・小集団)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護実践の役割モデルを果たす</li> <li>・あらゆる対象への保健指導を実施できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理的視点を持ち、教育の役割を果たす</li> <li>・保健指導に関して教育指導的な役割を担うことができる</li> </ul>
キャリアラダー レベルⅢに準ずる	キャリアラダー レベルⅣに準ずる	キャリアラダー レベルⅤに準ずる
キャリアラダー レベルⅢに準ずる	キャリアラダー レベルⅣに準ずる	キャリアラダー レベルⅤに準ずる
<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の倫理的問題に対処できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム内の倫理的問題の解決に向け、行動できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織内の倫理的問題の解決に向けて導く推進役を果たすことができる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊産褥婦・家族の価値観を理解できる</li> <li>・価値の多様性、お互いの価値を尊重することの重要性を理解し、行動できる</li> <li>・支援を受けながら、法的根拠に基づいた実践ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理的意思決定のプロセスに参画できる</li> <li>・倫理的意思決定においては、対象・家族の視点を理解し、必要な情報提供等の支援ができる</li> <li>・倫理的課題に対して、対象や家族、関連する職種と対話を持ちながら、最善の選択ができるように行動できる</li> <li>・法的根拠に基づいた実践ができる</li> <li>・学生指導や研修生の実習に伴う助産師・看護師の法的責任について理解し、実践できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理的意思決定場面においてコーディネートの役割を担うことができる</li> <li>・自部署における倫理的な感受性を高めるよう行動できる</li> <li>・学生指導や研修生の実習に伴う法的根拠について、教育・指導的役割が実践できる</li> </ul>
キャリアラダー レベルⅢに準ずる	キャリアラダー レベルⅣに準ずる	キャリアラダー レベルⅤに準ずる
キャリアラダー レベルⅢに準ずる	キャリアラダー レベルⅣに準ずる	キャリアラダー レベルⅤに準ずる
キャリアラダー レベルⅢに準ずる	キャリアラダー レベルⅣに準ずる	キャリアラダー レベルⅤに準ずる

国立成育医療研究センター院内教育冊子、日本看護協会助産実践習熟段階(クリニカルラダー)を参照し作成。2021年4月1日改訂